重点戦略２「強みを伸ばす」成果と課題

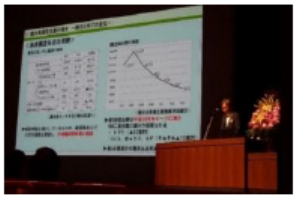
１　目　的

大消費地に近く、広大な水田と高い生産技術などの本県の強みを最大限に生かし、成長産業としての農業の更なる発展を図ります。

２　実　績

◆ 販売額１億円以上の先進的園芸経営体数	R7：40 戸	［目標値：38、基準年度：25（R2）］
◆ 50ha 規模以上の園芸メガ産地数	R3～7：３戸	［目標値：７、基準年度：２（R2）］
◆ 30ha 規模以上の土地利用型農業中核経営体数	R7：249 戸	［目標値：450、基準年度：194（R1）］
◆ 牛飼養頭数 200 頭以上の経営体数	R7：126 経営体	［目標値：90、基準年度：71（R2）］
◆ ＰＲ可能なユニークセリングポイントを発掘した品目の数	R7：５品目	［目標値：５、基準年度：―（R2）］
◆ 環境変化や時代のニーズに対応し新たに開発した品種・技術数	R7：51※	［目標値：44、基準年度：―（R2）］

（※新品種：４、新技術：47）



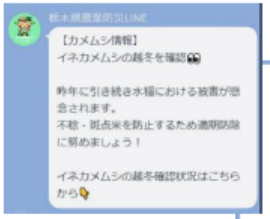
園芸大国とちぎ推進フォーラム

３　これまでの主な取組及び成果

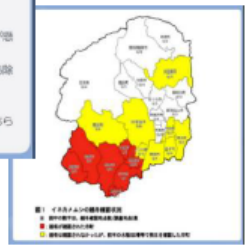
（１）「重点戦略２」共通の取組・成果

○ スマート農業機器は、基準年度の約２倍の経営体で導入が進み、スマート農業技術の活用が加速化された。
（先端技術導入経営体数　R2：898 件　→　R7：1,756 件）

○ 農産物の品質や収量の低下等をもたらす気候変動に対して、「カメムシ防除作戦」を始めとした適応策に各地域で取り組んだ。（気候変動に関する情報発信（防災 LINE）　R7：60 回）



農政部防災 LINE



（２）新たな施設園芸の展開

○ 園芸大国とちぎづくりの更なる加速化に向けて、新たな推進方針（R5）と主力品目であるトマト、にら、アスパラガスの具体的な対応方向を示したアクションプラン（R6）を策定した。

○ とちあいかの普及に取り組んだ結果、作付面積が拡大し、いちご産出額が大幅に増加した。
（いちごの産出額　R2：238 億円　→　R7：303 億円）

○ 複数ＪＡの農産物を取り扱う青果物広域集出荷センターの稼働（R5）により、効率的な分業及び物流体制の構築が進んだ。



とちあいか

（３）稼げる水田農業の実現

○　本県の強みである広大な水田を活用した露地野菜生産を推進した結果、10ha 規模の露地野菜産地づくり基本構想の承認地区（モデル産地）が増加した。（R2：28 地区　→　R7：57 地区）

○ 米粉用米の生産及び需要拡大に向けて、「米粉用米生産拡大研究会」（R5）が発足した。

○ 省力的で効率的な稲・麦・大豆の生産体系の確立に向けて、各種セミナー等を開催した。



水田を活用した露地野菜栽培
（加工用じゃがいも）

重点戦略２「強みを伸ばす」成果と課題

（４）とちぎの畜産力強化に向けた展開

○ 畜産の産出額拡大を目指し、担い手の確保と経営体の多様化、自動化・省力化を図るスマート農業機器の導入等を推進した。
（牛飼養頭数 200 頭以上の経営体数　R2：71 経営体　→　R7：126 経営体）
（繁殖雌牛（肉用牛）の飼養頭数　R2：12,800 頭　→　R7：12,900 頭）

○ 栃木県酪農振興対策会議（R5）や持続的畜産経営推進協議会（R5）を設置するとともに、耕畜連携コーディネーターによる耕種農家と畜産農家のマッチングに取り組んだ。


持続的畜産経営推進協議会

（５）“選ばれる栃木の農産物”の実現

○ 「県産農産物ブランド化推進会議」を設置し、県産農産物統一ロゴマーク「とちぎ育ち」を作成した。

○ 「いちご王国・栃木」を最大限に生かしたブランド発信力の強化に取り組んだ結果、いちごや県産農産物の認知度が向上した。（いちご王国の認知度向上※　R2：29.0%　→　R7：65.7%）　※関東圏１都６県に調査（県調べ）

○ 輸出先国での牛肉やいちご、なしなどのプロモーションの展開等により、県産農産物の輸出額が増加した。
（県産農産物の輸出額増加（R2：3.2 億円　→　R6：8.2 億円（R7:13.5 億円））



栃木県誕生 150 年記念
「いちご王国・栃木の日」イベント

（６）時代を見据えた研究開発の推進

○ 本県農業の顔となるオリジナル品種や生産性の高い新技術を開発するとともに、気候変動や SDGs など環境の変化や時代のニーズに適応した農業技術の開発・普及を進めた。（育種の効率化に向けた DNA マーカーの開発、あじさい新品種の開発、環境制御技術を用いた夏越し型トマトの栽培法の確立、クビアカツヤカミキリ対策技術の開発　など）


ベトナムでの牛肉プロモーション

4　主な課題（対応の方向性）

［施設園芸］
○ スマート農業機器に適応した生産方式への転換など、更なる生産性向上の推進
○ AI や環境制御など、先端技術の導入効果の検証及び効果的な活用促進

［水田農業］
○ 省力・低コスト化技術の導入等による経営規模の拡大促進
○ 機械化一貫体系の導入支援等による露地野菜モデル産地の規模拡大促進
○ 加工・業務用需要など露地野菜の需要の変化に対応した新たな品目の導入

［畜産］
○ 生産コスト低減に向けた自給飼料の増産や耕畜連携の促進
○ 肉用牛繁殖雌牛の増頭につながる取組の推進（肉用子牛価格の低下等への対応）

［選ばれる栃木の農産物］
○ いちご以外の農産物の認知度向上に向けたＰＲの強化
○ 国際情勢の変化を的確に捉えた更なる海外における需要喚起及び海外ニーズに対応できる産地の育成

［研究開発］
○ 気候変動や環境負荷低減、スマート農業技術等に対応した新品種・新技術の開発


高温期の遮光に対応するための
LED 樹間補光（夏越し型トマト）



DNAマーカーで選抜を行っている形質の例
※（　）内は、開発機関


あじさい新品種
（キャンディポップ）